

Q⁸⁰

インフルエンザが病棟内で発生した場合のオセルタミビル予防投薬の適応と方法について教えてください。また発症した患者の隔離はいつ解除したらよいのでしょうか？

A

1. オセルタミビルの予防投薬

インフルエンザ予防には、流行シーズン前のワクチン接種が最も重要であり、次いで標準予防策、咳エチケットをはじめとする感染対策が不可欠です。抗インフルエンザウイルス薬の予防使用はあくまでもそれを補完するものであることがまず前提です。

現在、わが国で使用可能な抗インフルエンザウイルス薬は、M2蛋白阻害薬であるアマンタジン(シンメトレル[®])と、ノイラミニダーゼ阻害薬であるオセルタミビル(タミフル[®])、ザナミビル(リレンザ[®])がありますが、このうち、予防的な使用が認められているのは、アマンタジンとオセルタミビルです。このうちアマンタジンは、A型インフルエンザにしか効果がないこと、副作用として10～30%に軽度～中等度の中枢神経症状を認めること、ならびにインフルエンザウイルスは本薬に耐性化しやすく耐性ウイルスが増加していること、などの理由から適応が限られます。したがって予防的使用を考慮する場合、オセルタミビルが対象となることが多いと思われまますので、ここでは同薬について述べます。

ノイラミニダーゼ阻害薬によるインフルエンザの予防法には、流行期間中の長期予防内服と、ウイルス曝露後の短期予防内服の2種類があります¹⁾。

流行期の長期予防内服は、CDCのガイドライン^{2~4)}によると次のケースが適応となります。①ハイリスク患者であって、インフルエンザの流行が始まってからワクチン接種を受けた者。ワクチン接種後抗体価が上昇するのに2週間程度かかるので、この間の予防内服を考慮します。9歳以下の小児で始めてワクチン接種を受けた場合は6週間の内服を考慮します。②ハイリスク患者と頻回に接触するワクチン未接種の者。この中には、病院・長期療養施設職員、家族、訪問看護師などが含まれます。ワクチン既接種であっても、ワクチン株と流行株が異なって感染が阻止できない場合にも予防内服を検討します。③ワクチンを接種しても、正常な抗体産生が期待できない者、例えばHIV/AIDS患者。ただしその有用性は十分検証されているとはいえません。④何らかの理由でワクチンが接種できない者。長期予防内服は、オセルタミビル75mg/日で6～8週間といった期間に及ぶため、副作用に留意し、適応を十分検討した上で使用します。

ウイルス曝露後の短期予防内服は、ハイリスク患者であって家族内、施設内でインフルエンザ患者との接触があり、特にワクチン接種をしていない者に対して実施します。この場合、成人および13歳以上の小児にはオセルタミビル75mg/日で7～10日間の服用が推奨されます。1歳未満の小児に対する安全性および有効性は確立していません。ハイリスク患者とは、タミフル[®]の添付文書には、高齢者(65歳以上)、慢性呼吸器疾患または慢性心疾患患者、代謝性疾患患者(糖尿病など)、腎機能障害患者、などが例示されています。

なお、米国FDAは2006年3月、ザナミビルを成人と5歳以上の小児のインフルエンザ予防薬として認可しました。

2. 患者隔離解除の基準

病院などでインフルエンザ患者が発生した場合は、可能な限り個室での医療提供が望ましいです。しかしこの個室隔離解除の基準については明確な指針がありません。一般的にインフルエンザに感染したヒトは、発症直前から発症後3～7日間程度ウイルスを排出するとされます⁵⁾。この期間の患者

は感染力があるといえますが、排出されるウイルス量は発症2日目頃をピークとして減少します(小児や免疫抑制状態の患者では若干延長します)。この事実を考慮して隔離解除時期を決めるのが現実的です。

学校保健法では、「解熱したあと2日を経過するまで」をインフルエンザによる出席停止期間としていますが、病院内には免疫抑制状態の患者も多くいることから、隔離を解除して一般患者と同室にする場合には、状況を十分評価した上で判断します。隔離を解除したあとも咳嗽などの症状が続いている場合には、マスクの着用、咳エチケットの励行といった配慮が必要です。

文献

- 1) 新庄正宜：インフルエンザ院内感染におけるノイラミニダーゼ阻害剤の役割。インフルエンザ 2004; 5: 235-242
- 2) CDC : Influenza antiviral medications : 2005-06 chemoprophylaxis (prevention) and treatment guidelines. Jan. 14, 2006.
- 3) CDC : Infection control measures for preventing and controlling influenza transmission in long-term care facilities. Dec. 23, 2005
- 4) Recommendations of the advisory committee on immunization practices (ACIP). Prevention and control of influenza. MMWR 2004; 53: 22-23
- 5) Hayden FG, et al. : Local and systemic cytokine responses during experimental human influenza A virus infection. J Clin Invest 1998; 101: 643-649

(川名明彦)